

■人ひと 譚馨社長 「旅行社を経営 アクトラベル(株)」

お客様に自分なりのサービスを提供したいとして04年に旅行社を立ち上げ10年がたつ。創業当初と比べると、社員は1人~10数人(日中それぞれ半々)に、取り扱い客数も約3倍に増え、業績は日中両政府間交流が悪化した2年間も含め総じて右肩上がりだ。

中国からのインバウンドが営業の中心かと思いきや、以外にもアウトバウンドが主力。インバウンドが年間約800人~1000人で、アウトバウンドは約1万人と約10倍。顧客は法人や個人、中国人、日本人と幅広く、日中間が6割で、東南アジアや欧米など他国は4割、この営業戦略が奏功している。特にエストニアに力を入れている。同国出身の元大関・把瑠都 凱斗が経営するバルトツアーズとツアーを共同で企画し送客している。

出身は中国の景勝地、桂林のある広西壮族自治区。大学で観光日本語を専攻後、地元の旅行社に半年勤務し2000年に日本へ留学。日本語学校を経て3年ほど日本の旅行社に勤めたが、その後独立。早い起業だ。中国の方々は独立心と向上心が旺盛で会社経営を目指す人が多いと聞くが、譚社長もそうですかと問うと、日本の旅行社に勤務中、自分なりのサービスを顧客に提供したいと思っても会社のルールに阻まれ限界を感じての決断だったという。『お客様に喜んで頂けることにやりがいを感じ、そして幸せな気持ちになる』と、仕事に挑む原点を語る。

未知の分野へのチャレンジャーでもある。『中日間の病院、シルバー産業、学校どうしの交流やイベントも手がけたい』と抱負を語る。更に過大な夢だとしながらも『世界中に支店をつくり、人と人との交流に尽力したい』。やわらかな微笑みのなかに固い決意が読み取れる。経営者として社員への目配りも忘れていない。『経営を安定させ、社員が安心して働ける会社にしたい』と強調した。

2年前には東北応援バスツアーを企画、多くの中国人若者が同地を訪れた。